

2020 年度・総合研究所研究チーム活動（最終）報告書

研究代表者（所属・職名・氏名）

国際言語文化センター・教授・金 泰虎

① 研究課題

東アジア社会における諺と慣用句の研究

② 研究期間

2019 年度～2020 年度

③ 研究メンバー

甲南大学教授 金泰虎、和歌山大学名誉教授 柏原卓、甲南大学特任講師 平井一樹、姫路獨協大学教授 文春琴

④ 研究成果および実績の概要（1200～1600 字程度）

「東アジア社会における諺と慣用句の研究」という研究課題のもと 4 人の研究者が研究を行い、最終年度には、以下のような研究成果をおさめた。

金泰虎は「日韓社会の諺と慣用句にみる餅の意味合い」という題名のもと研究を行い、第 10 回韓国文化学会大会及び総会（2020 年 10 月 21 日、Zoom 開催）で発表をするとともに大会集（『韓国文化研究』別冊 3 号：pp. 7-32）に論文を掲載した。本発表では、日韓社会における生活の営みの中で食品である餅が諺や慣用句にはどのように用いられたのか、食品学・民俗学・言語学を横断する観点で分析を行った。さらに、2 年間を総括する総研叢書には「諺及び慣用句の成立と誕生—日韓の事例を中心に—」という論文を掲載する。

柏原卓は「日韓の文芸における諺使用」という題名のもと、辞書の出典付例文や古典注釈書が認定したことわざを収集し認定方法を工夫して用例を発掘したりして、日韓文芸のことわざ使用について解明を行った。この研究は第 10 回韓国文化学会大会及び総会（2020 年 10 月 21 日、Zoom 開催）で発表を行い、大会集（『韓国文化研究』別冊 3 号：pp. 33-40）に論文として掲載をしている。なお、総研叢書には研究成果として「パンソリ「春香伝」中の諺—その使用と変容—」を掲載する。

平井一樹は、6 つの書き言葉コーパス（韓国語母語話者と中国語母語話者の日本語学習者と日本語母語話者を含む）を使用し、諺や慣用句・慣用表現などがどれだけ習得され、使用されているか、また、今後どのように日本語教育に反映させていけばよいかの考察を行った。この研究は「日本語教育における諺や慣用句・慣用表現—複数の書き言葉コーパスにおける韓国語・中国語母語話者の使用実態から—」というタイトルをもって第 10 回韓国文化学会大会及び総会（2020 年 10 月 21 日、Zoom 開催）で発表を行い、大会集（『韓国文化研究』別冊 3 号：pp. 41-62）に論文として掲載した。さらに、研究叢書には別稿をもって掲載する。

文春琴は「日本と韓国のことわざや慣用句が語る人生観と世界観」というタイトルのもと、最終年度の研究では複雑な発音の変化を伴い同根派生語が発達した韓国語の語彙を分析し、なぜ異なる意味を持つ単語と単語が同じ音を持っているのかを考察している。特に、言語から見える韓国人の自然観や世界観を垣間見るために母音に見られる陰陽思想と両唇音や歯茎音に見られる最小対立語(minimal pair) の対応を比較し、音の象徴体系を利用して基礎語彙の同根派生語が現れる諺を集めて分析を行った。

以上、最終年度の研究成果、そして初年度の研究実績までを踏まえ、総研叢書として出版をする予定である。

⑤ 研究発表

- ・研究費を使用して開催した国際研究集会

コロナ禍のため国際研究会での対面発表は実現できなかった。

- ・本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

⑥ 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

なし

⑦ 研究成果の公開方法（研究叢書の公刊、学術雑誌投稿など）

研究叢書の公刊。